

地誌授業の素材を収集するーオーストラリアー

山口県立徳山北高等学校 白石 健一郎

1. はじめに

オーストラリアは、日本人の好きな国のランキング調査で、いつも上位にランクインする人気がある国である。テレビでも旅行やグルメなどの番組で放送されたり、書店にはガイドブックや関連図書がたくさん並んでいる。最近、日本人観光客の減少が目立つようになってきているそうだが、それでも治安がよい英語圏の国ということで修学旅行やホームステイの研修先にも選ばれることも多い。また、ワーキングホリデーの制度を利用して長期滞在する若者の数も年々増加している。このように多くの日本人から関心を持たれている国といえるが、テレビ番組からもたらされる一面的な情報からステレオタイプに理解してしまっていることも多いように感じる。地誌学習においては、各種資料の活用を通して、諸地域を様々な視点から多面的に考察させ、各地域が有する一般的共通性や地方的特殊性などに気づかせたい。

地域の姿を生徒にいきいきと語るためには、教師自身がその土地を歩き、自分の目で確かめておくことが大切であるといわれる。しかし、現在の学校現場は、多忙化に拍車がかかる一方であり、ひと昔前のように海外にまで足をのばして教材収集することは、物理的

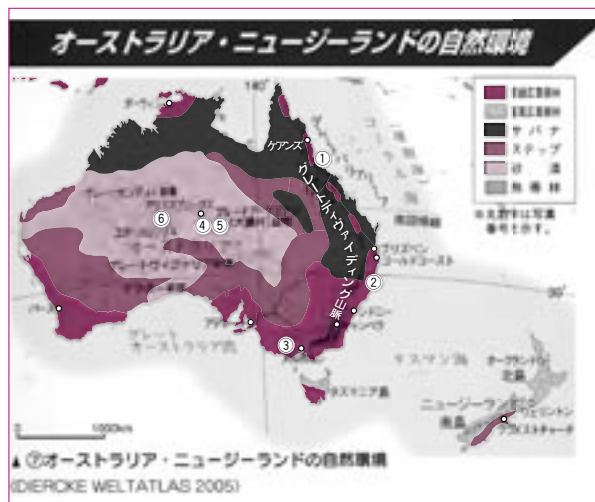
に困難な状況となっている。

そこで本稿では、オーストラリア地誌を例にとりながら、フィールドワーク以外の授業素材の収集とその活用について考えてみたい。

2. ガイドブックから収集する

最近のガイドブックは、専門の調査員やトラベルライターが現地で収集した詳細なデータをもとに編集されており、ホテルやレストランなどの観光情報だけでなく、歴史や文化などのコラムのページも充実しており、なかには地誌書とでもいえるほどバリエーションに富んだ内容を掲載しているものもある。海外旅行を切り口にして地誌の授業を展開する場合、市販のガイドブックに目を通しておけば、参考になる情報が得られることがある。

『高等学校 新地理A 初訂版』（以下、教科書）の口絵9「世界を旅して オセアニア ～オーストラリア～」の「②ゴールドコーストのサーファーズ・パラダイス」を取り上げる場合、ガイドブックで現地について調べておけば、ゴールドコーストは、晴れの日が多く（年間300日近くある）、1年を通じてサーフィンに適した高い波が打ち寄せるため、その名のとおり、サーファーたちの人気スポットとなっており、高波による



『高等学校 新地理A 初訂版』口絵9⑦



『高等学校 新地理A 初訂版』口絵9②



『高等学校 新地理A 初訂版』口絵9④



『図説地理資料 世界の諸地域 NOW 2009』p.155⑤

水難事故を監視するためライフセーバーがビーチに常駐していることなどがわかる。これらの情報からキャプションの内容に厚みを持たせて説明することができる。

オーストラリアの鉄道についてもガイドブックを参考にしながらふれておきたい。教科書口絵9の「④ザ・ガン号」はオーストラリア大陸を南北に縦走する大陸縦断鉄道の寝台特急列車である。この列車はサウスオーストラリア州の州都アデレードとエアーズロックへの観光拠点アリスプリングス、さらにトップエンドのダーウィンまでの約3000kmを2泊3日(約48時間)かけて走り抜ける。2004年の全線開通以来、世界中から予約が殺到する人気列車でもある。この列車の名前は、かつてオーストラリア大陸探検時に活躍した「ラクダ使いのアフガニスタン人とラクダの隊列」を「アフガン」とよんでいたことに由来しており、先頭車両にはシンボルマークの「ラクダ」が描かれている。『図説地理資料 世界の諸地域 NOW 2009』p.155⑤にも、アリスプリングス近郊で撮影されたザ・ガン号の写真が掲載されている。この写真から読み取れ

る地理的情報については、東京大学の山田興一先生が『地理・地図資料』2007年2月号p.18「表紙写真解説 オーストラリアのワジと植生」のなかで詳しく解説されているのでそちらを参照されたい。

このように、私はガイドブックから得た情報を手がかりにしながら授業づくりをしている。かつてはガイドブックを利用することにいささか抵抗感を覚えたこともあったが、ガイドブックの情報は授業に説得力を与えると割り切って頻繁に活用している。

3. テレビ番組から収集する

生徒の興味・関心を高めるためにテレビ番組を活用することはとても効果的である。近年は、ハードディスクレコーダーなどが登場してきたことにより、多くの番組をデジタル録画できるようになってきた。録画した番組は、簡単に編集でき、パソコンとプロジェクタがあれば、どこでも容易に映写できるようになった。ただし、テレビ番組を授業で活用する場合、視聴時間が長くなると冗長的になりやすいので、その点を考慮しておく必要がある。また、視聴に際してワークシートなどに記録をとらせておけば、復習や振り返りに利用できるほか、生徒の集中力の低下を防ぐことができる。いずれにしても、生徒の探究心をくすぐるような魅力的な映像が活用できれば、生徒の反応が俄然よくなるので、私はあらかじめ授業で使えるような番組を新聞のテレビ欄などでチェックし、予約録画するようになっている。

教科書口絵9の「⑥エアーズロック(ウルル)」を説明する際には、TBS系列で放送された「THE 世界遺産 ウルル・カタジュタ国立公園」を鑑賞させている。



『高等学校 新地理A 初訂版』口絵9⑥

Gondwana大陸の地層が約4億年前の造山運動でほぼ垂直に傾き、その後の侵食によって硬い地層が削り残されて世界最大級の一枚岩になっていく様子が迫力ある映像で説明されている。また、一般に「エアーズロック」の名で知られるこの岩が先住民アボリジニー（アナンダ族）からは「ウルル（偉大な岩）」とよばれ、古くから神聖な岩として崇められている聖地であることも紹介されている。この岩を植民者の「エアーズロック」としての視点と、先住民の「ウルル」としての視点から複眼的に考察してみると、古くからのオーストラリアの歴史や文化について深く探究できる素材になるように思われる。

NHK教育テレビの高校講座も活用したい番組である。地理の専門家が番組制作に携わっていることもあり、全編にわたって良質な映像コンテンツで構成されている。私は授業と関わりの深い場面をいくつかピックアップし、じっくりと観察させたい場合には静止画にして説明したり、しっかりと記憶にとどめたい場合には映像を繰り返して視聴させている。今年度は、「オセアニア～オーストラリアの産業と環境～」というタイトルで10月28日（水）に放送される予定である。

同じく教育テレビの「10min.ボックス」という番組もしばしば活用している。あまり知られていない番組だが、10分という短時間でテーマ別にまとめられているので、とても利用しやすい。オーストラリア編は2006年に5回に分けて放送された（「自然環境」「農牧畜」「資源大国」「多様な民族」「人々の暮らし」）。優れた映像教材でありながら、再放送の予定がないのが残念である。

4. インターネットから収集する

今やインターネットは教材研究には欠かせない存在になっている。ネット上の情報の中から教材になりうる情報をいかに収集し、どのように地理的に取り扱うかが重要となる。ここでは、オーストラリア地誌の授業に活用できるWebサイトをいくつか紹介したい。

一つ目は、在日オーストラリア政府の豪日交流基金が制作した「オーストラリア発見」というWebサイト（<http://discover.australia.or.jp/>）である。中学校の社会科や「総合的な学習の時間」での調べ学習を想定して制作されたものだが、系統的に内容が整理されており、高校の探究的な学習でも十分に活用できる。こ

のほかに同基金はオーストラリアの国旗やアボリジニーのブーメランなど約30点の実物教材からなる「オーストラリア体験セット」を無料で貸し出しており、授業で利用することができる。



「オーストラリア発見」のWebサイト

二つ目は、石川県の松浦直裕先生が開設された「Wonderful Australia」というWebサイト（<http://web3.incl.ne.jp/matsuura/>）である。シドニー日本人学校に3年間勤務されていた松浦先生は、地理教師の視点からオーストラリア各地をフィールドワークされ、日本ではあまり知られていないローカルな地理的課題や在住者ならではの体験談をととてもわかりやすく紹介されている。こちらにも目を通しておきたい。

5. おわりに

身の回りのメディアからもたらされる情報を地理的に読み解き、地理を学ぶことの大切さや面白さを生徒にいきいきと伝えていくことは、われわれの重要な責務であると考えます。

今年の3月に1999年以來の改訂となる高校の新学習指導要領が告示された。日常生活との関連や歴史科目との連携など、地理Aの授業の在り方も大いに検討していかなければならないが、常に生きた情報をリアルタイムで提供できるように教材研究に取り組んでいきたいものである。

参考文献

- 伊藤伸平（1998）『旅大陸 オーストラリア』凱風社
- 松浦直裕（2003）『ワンダフル・オーストラリア』鳥影社